

第13回全国和牛能力共進会の概要

開催テーマ：「魅力発信 新しい力をつなぐ 和牛の未来」

主 催 公益社団法人全国和牛登録協会
運営団体 第13回全国和牛能力共進会北海道実行委員会
参 加 全国____道府県
会 期 令和8年6月____日（金） ～ 令和9年8月30日（月）
最終比較審査
会 期 令和9年8月26日（木） ～ 令和9年8月30日（月）
会 場 種牛の部 北海道河東郡音更町 ホクレン十勝地区家畜市場
肉牛の部 北海道帯広市 （株）北海道畜産公社十勝工場
出品頭数 種牛____頭、肉牛____頭、特別区____頭、合計____頭

【開催のねらい】

「能力共進会」の名称のもと、和牛の能力と斉一性の向上を目指す本共進会も、今回で13回目を迎えます。本共進会の特徴は、日常の登録事業を通じて、それぞれの時代の要求に応じた形で和牛改良を進めていくため、改良上の狙いを出品区の設定に盛り込み、本共進会に取り組むことによって、将来につながる優秀な素材を生産及び発掘し、これを出品展示することによって、その成果を確認し、全共後に引き継いでいくことにあります。

そのため、本共進会では、開催のねらいに基づくテーマを掲げ、その実現に努めてきました。これまでの共進会では、

- 第1回（昭和41年・岡山県） 「和牛は肉用牛たりうるか」
 - 第2回（昭和45年・鹿児島県） 「日本独特の肉用種を完成させよう」
 - 第3回（昭和52年・宮崎県） 「和牛を農家経営に定着させよう」
 - 第4回（昭和57年・福島県） 「和牛改良組合を発展させよう」
 - 第5回（昭和62年・島根県） 「着実に伸ばそう和牛の子とり規模」
 - 第6回（平成4年・大分県） 「めざそう国際競争に打ち勝つ和牛生産」
 - 第7回（平成9年・岩手県） 「育種価とファイトで伸ばす和牛生産」
 - 第8回（平成14年・岐阜県） 「若い力と育種価で早めよう和牛改良、伸ばそう生産」
 - 第9回（平成19年・鳥取県） 「和牛再発見！－地域で築こう和牛の未来－」
 - 第10回（平成24年・長崎県） 「和牛維新！ 地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな食文化」
 - 第11回（平成29年・宮城県） 「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」
 - 第12回（令和4年・鹿児島県） 「和牛新時代 地域かがやく和牛力」
- というテーマが設定され、それぞれ所期の成果を収めてきました。

前回大会では、宮城大会までの成果を引き継ぎ、全国の繁殖雌牛集団における平均分娩間隔を400日以内にするを目標として、分娩間隔の育種価を子牛登記証明書の備考欄に表示するなど、繁殖能力にかかわる情報の生産現場での活用を図りました。また、遺伝的多様性の確保においては、地域の特色ある牛づくりを促すとともに、優良雌牛の地域内保留に向けた取り組みの推進を行いました。さらに、テーマには「和牛新時代」を掲げ、新たな改良目標として、美味しさに関係する「脂肪の質」の評価体制の構築のほか、水分、粗タンパク質、粗脂肪などの食味性に関連する牛肉の一般成分についても客観的評価指標を確立するなど、和牛肉の新たな価値観の構築に向けての取り組みを展開しました。今回は、こうした取り組みの定着とさらなる成果向上を目指し、開催テーマを「魅力発信 新しい力でつなぐ 和牛の未来」として、生産性や和牛の魅力の一層の向上を図るとともに、新たな和牛肉の価値観の定着を進めていきます。

とくに、生産性の向上については、引き続き、全国の繁殖雌牛集団における平均分娩間隔を400日以内にするを目標し、分娩間隔の育種価の普及と定着を図るとともに、DNAや外貌諸形質等の情報を活用した効率的な改良手法の確立と普及に取り組めます。

和牛を取り巻く環境が厳しさを増すなか、資源を有効に活用した、効率的な和牛の生産・肥育の在り方が求められています。とくに飼料の利用性については重要な形質のひとつにあげられており、飼養管理技術の向上とともに、遺伝的能力についても改良を進めていく必要があります。種雄牛においては、飼料利用性にかかわる指標として直接検定の余剰飼料摂取量の育種価評価が行われており、DNA情報を活用したゲノミック評価も行なっています。余剰飼料摂取量は、肥育期間中の飼料効率との関連性も期待されていることから、育種価評価値およびゲノミック評価値の利用を推進し、種雄牛側からの遺伝的能力の改良を図っていきます。

遺伝的多様性の維持・拡大については、将来の和牛生産を担保するための重要な取り組みと位置づけられています。それぞれの地域の飼育環境に適応し、代々保留されてきた特色ある系統や雌牛集団の活用を進めることは、遺伝的多様性の維持・拡大ばかりでなく、種牛能力の改良にもつながります。そこで、これまで進められてきた系統再構築や地域の特色ある牛づくりをさらに充実させていくとともに、優良雌牛の地域内保留を促進し、それぞれの地域に固有の遺伝資源の活用と確保に取り組んでいきます。

育種価を用いた選抜と、生産者の技術の研鑽により、和牛の肉量、肉質はともに高いレベルに達しています。今後は、新たな牛肉の価値観の定着を図るため、脂肪の質（一価不飽和脂肪酸（MUFA））の育種価評価体制の強化を進めます。また、粗脂肪と粗タンパク質のバランスが食味性と関連することから、牛肉の一般成分の光学測定を推進し、同じBMSN0.内での粗脂肪含量の多寡を示す粗脂肪含量相対値（RFV）をはじめとした客観的な評価指標の普及と美味しさの視覚化を目指します。

将来にわたって地域の和牛を支える担い手の育成について、前回大会では、特別区「高校及び農業大学校」を設定し、若い世代への技術継承と同時に、地域の和牛への理解を深めるきっかけとなりました。今大会でも引き続き特別区として設定し、学校教育のなかで畜産を学ぶ若い担い手の育成を図ります。

これらのねらいの実現にあたっては、育種組合・改良組合をはじめとする改良組織活動が大きな推進力となります。全共への取り組みを通じて、育種組合・改良組合の活性化を促すとともに、地域の特色ある牛づくりの推進と生産、改良意欲の増進を図ります。

和牛は、歴史と風土に培われた我が国固有の知的財産であり、日本の食文化を代表する食材として国内外から高く評価されています。世界的規模で食料、資源を巡る動きが厳しさを増す中、将来にわたる再生産を実現させるために、繁殖・肥育の両面から生産性の向上と新たな和牛肉の価値観の定着を図り、和牛の魅力を引き出すとともに、国内外に向けた魅力の発信に取り組みます。

【出品の区分について】

出品の区分			
部 出品区	生後月齢 ^{※3}	生年月日	備考
種牛の部			
第1区(若雄)	15～23ヵ月未満	令7.9.27～令8.5.26	
第2区(若雌の1)	14～17ヵ月未満	令8.3.27～令8.6.26	※1
第3区(若雌の2)	17～20ヵ月未満	令7.12.27～令8.3.26	※1
第4区(繁殖雌牛群)	3産以上		
第5区(高等登録群)	14ヵ月以上	令8.6.26以前	
第6区(総合評価群)			※2
種牛群	17～24ヵ月未満	令7.8.27～令8.3.26	
肉牛群	24ヵ月未満	令7.8.27以降	
肉牛の部			
第7区(脂肪の質評価群)	24ヵ月未満	令7.8.27以降	※2
第8区(去勢肥育牛)	24ヵ月未満	令7.8.27以降	※2
高校及び農業大学校の部			
特別区(高校及び農業大学校)	14～20ヵ月未満	令7.12.27～令8.6.26	

※1 出品牛の父牛は、平成25年10月1日以降生まれのもの。

※2 出品牛の父牛は、平成27年10月1日以降生まれのもの。

※3 月齢は北海道会場初日(令和9年8月26日)で起算する。

改良の中核的集団である和牛改良組合の活動を活性化させ、生産・改良基盤の強化を図るねらいから、種牛の部の出品者については、「和牛改良組合の会員」であることとしました。

また、能力共進会としてふさわしい大会にするため、種牛の部の全区の出品条件に繁殖能力と産肉能力の育種価条件を設定しました。また、新たな和牛肉の価値観

の定着を狙うことを目的とし、肉牛の部の全区において脂肪の質の育種価が判明していることを条件に加え、脂肪の質評価群については一定の水準以上の条件を付与しました。また、改良速度の向上を図るには、世代間隔の短縮も重要であることから、引き続き父牛に年齢制限を設定した区を設けました。

遺伝的多様性の確保及び地域の特色ある牛づくりについては、地域の特色ある系統から造成された種雄牛候補を出品する区や、地域で代々保留されてきた母系を活用した群出品区を設定するほか、若雌区および肉牛の部全区においても、母の生産地の条件を加え、地域で保留されてきた改良素材の活用を図ることとしています。

また、和牛を飼育する高校・農業大学校からの出品を対象とした特別区「高校及び農業大学校」を設け、和牛の未来を支える担い手の育成に取り組むこととしています。

①若雄（1区）

和牛集団の遺伝的多様性の維持・拡大と、地域における特色ある系統の再構築と造成を目指し、将来にわたって系統の特色ある遺伝子を保留・固定していくための種雄牛候補の造成を目的とした区です。

出品牛を造成する系統は、地域における遺伝的多様性の維持・拡大を担うもので、地域の特色を備えていることとし、出品牛は系統内から造成された種雄牛候補とします。

出品牛は、繁殖能力優秀な母牛から生産されたもので、産肉能力について一定以上の水準を満たしていること及び父または母が脂肪の質（MUF Aまたはオレイン酸）の育種価が判明していることが求められます。また、飼料利用性の改良を種雄牛側から進めていくため、出品牛は、余剰飼料摂取量のゲノミック評価により飼料の利用性の遺伝的能力が把握されているものとしします。

なお、この区の対象牛については、出品牛の系統的背景や造成の目的についても周知し、また、後代検定により早期に能力を確認し、地域での活用を図っていきます。

②若雌（2～3区）

改良組合活動の活性化による増頭意欲の向上とともに、全共参加者の拡大を促すことを狙いとした出品区です。

個人による個体出品で、出品者は、本会認定の「改良組合の会員」であることが条件です。

出品牛には産肉能力、その母牛には繁殖能力について、一定以上の水準が求められます。

出品牛は、改良組合の改良方針に基づき生産されたもので、自道府県内で生産された母牛の産子であることとしします。また、父牛には年齢の制限を設定し、若い種雄牛の活用と世代交代を促します。

この区の対象牛を改良組合内で積極的に選抜・保留することで、地域全体の生産

基盤の安定と生産性の向上につなげます。

③繁殖雌牛群（４区）

地域の特色ある雌牛集団づくりの実現と、育種組合及び改良組合活動による改良成果の確認と技術向上を目的とした出品区です。

本会認定の育種組合または改良組合による出品で、成雌牛３頭を１群として出品されます。

出品牛は、３代以上（本牛－母－母方祖母）にわたり自道府県内で生産されてきた、地域の特色を備えている雌牛です。出品牛は、産肉能力と繁殖能力について、一定以上の水準が求められます。

なお、この区の対象牛及びその後代について、積極的に育種組合及び改良組合内で選抜・保留し、地域の特色ある牛づくりと生産性の向上につなげます。

④高等登録群（５区）

母－娘－孫娘に亘る改良の成果の確認と、優良雌牛系統の地域への保留推進と拡大を狙いとした出品区です。

本会認定の改良組合による出品で、高等登録の母牛と娘牛及び孫娘牛の直系３代にわたる３頭を１群として出品されます。

この区では、改良の中核となる高等登録の意義を再確認し、地域の生産・改良基盤の強化のため、高等登録の促進につなげます。

⑤総合評価群（６区）

種牛能力と産肉能力を総合評価する出品区で、地域の改良の中核を担う種雄牛の産子を実証展示し、各地域の改良成果を確認することを狙いとした出品区です。

出品単位は本会認定の育種組合ならびに本会支所とし、道府県の改良方針に基づき計画的に造成された同一種雄牛の産子を種牛群（４頭）と肉牛群（３頭）合わせて１群として出品されます。

出品牛の父牛には年齢の制限が設けられ、脂肪の質（MUF Aまたはオレイン酸）の育種価が算出されていることが求められます。また、種牛群の出品牛は繁殖能力と産肉能力について、肉牛群の出品牛は産肉能力について、それぞれ一定以上の水準が求められます。また、種牛群、肉牛群ともに、自道府県内で生産された両親からの産子が出品されます。

この区の対象種雄牛により生産された優良雌牛を積極的に保留することで、種牛能力と産肉能力をバランス良く備えた次世代の繁殖雌牛集団づくりにつなげます。

⑥脂肪の質評価群（７区）

脂肪の質の改良を促進するとともに、脂肪とタンパク質のバランスや交雑脂肪の形状の客観的評価値としての粗脂肪含量相対値（RFV）など食味性とも関連する和牛肉の新たな価値観の定着を図ることを目的とした出品区です。

個人またはグループによる出品で、同一種雄牛の産子の去勢肥育牛3頭を1群として出品されます。

出品牛の父牛には年齢の制限が設けられ、脂肪の質（MUF Aまたはオレイン酸）の育種価が県平均以上の優秀な能力を持つ種雄牛であることとします。

出品牛は自道府県産の母牛から生産されたもので、産肉能力の育種価について一定以上の水準が求められます。

脂肪の質等の食味性にかかわる形質に優れた種雄牛の発掘とその利用を推進し、和牛肉の新たな価値観の定着を図ります。

⑦去勢肥育牛（8区）

効率的でかつ美味しい和牛肉生産を目指し、改良された和牛の能力と肥育技術により、和牛の魅力を最大限に引き出すことを目的とした出品区です。

個人による出品で、1つの道府県から2頭までの去勢肥育牛が単品として出品されます。

出品牛の父牛には年齢の制限が設けられ、さらに脂肪の質（MUF Aまたはオレイン酸）の育種価が算出されていることが条件となります。

また、出品牛は、自道府県産の母牛から生産されたものとします。

この区の取り組みを通じて、和牛肉の新たな価値観の定着を図り、また繁殖・肥育の連携を強め、最適な生産サイクルの追究につなげます。

⑧高校及び農業大学校（特別区）

農業教育とその学習活動を通じた和牛への理解醸成と担い手の育成を目的とした区です。

和牛を飼育する高校および農業大学校で生産・飼育された若雌1頭が出品され、出品牛と取り組み発表に対する総合的な審査を行います。

この区では、和牛生産・飼育を学ぶ学生の意欲向上を図るとともに、地域の和牛の魅力向上や諸課題の解決につながるような取り組みを促し、将来にわたり和牛生産に取り組む人材の育成・確保を目指します。